この子らと

令和7年8月号

命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども環



ねた犬に ふわとかぶさる 木の葉かな どんぐりに ねんねんころり ころりかな (小林 一茶)

「母の声は金の鈴の音」

児童文学作家で、椋鳩十先生、『大造じいさんと がん』、『マヤの一生』など動物愛にあふれた作品 が数多く書かれておられます

椋鳩十先生の言葉です。



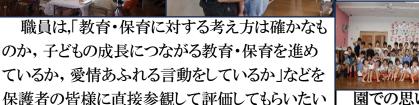


「母が声を出して読むというのは,極めて大切な ことである。なぜなら、声の中には、必ず心があり、心 を込めて読めば.優しい母の声が子どもの中に入り 込んでいくのである。

さらに、読む物語によって、ある時は心の底から笑 い、ある時には、主人公に同情して涙を流し、感動す ることを繰り返すことによって本当に懐かしい思い 出とともに母の声は、子どもの心にしっかりと焼き付 いていくのだ。この懐かしい母の声は,音を立てて 子どもの心になり続けるのである。この声はある時 は、優しく温かく、ある時は、強く子どもの心をなぐさめ 励ますのである。

心になり続ける(金の鈴の音)は、豊かな人間形成 において,極めて重要な要素である。」

卒園生が来園「新一年生の集い」



園長であるわたくしは、身びいきかもと思います が、どのクラスの職員にも子どもたちへの教育愛と 気概を感じ、うれしく思うことでした。

という願いをもって保育参観を行っています。

人は皆。誰一人として例外なく。素晴らしいオンリ ーワンの存在(教育研究家 七田眞)







園での思い出のアルバムを大切に持ち帰った新 一年生の子どもたち。がんばっていることは,勉強, 夏休みの宿題,算数,国語,漢字,サッカーなどと年 長ぞう組の子どもたちに教えてくれました。

卒園して4か月、一歩一歩、新たな世界の色に 染まっていく姿に、少し、寂しさを感じました。

子どもたちの未来に幸あれと祈ります。